

# おいしい米づくり情報

2021/03/09

## 第1号

庄内総合支庁  
農業技術普及課  
Tel. 0235-64-2103

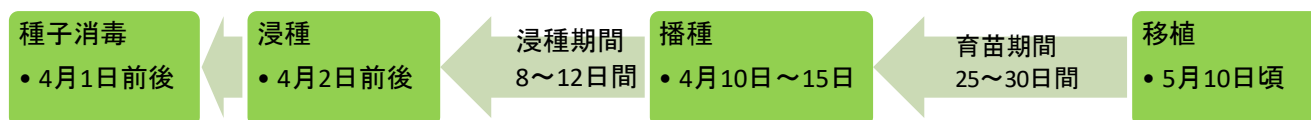
### ◆技術のポイント◆

- 苗半作！健苗育成で順調なスタートを切りましょう！
- 登熟期が高温で経過した翌年は、種子浸漬や催芽を丁寧に！
- 引き続きプロクロラズ剤（スポルタック剤）耐性イネばか苗病菌への対策を！

### ○作業計画

高品質・良食味生産のための移植適期は 5月10日頃 です。移植が遅くなることで初期生育が不足気味となり、収量が低下してしまう場合があります。移植日から逆算して計画を立てましょう。

#### ●移植日から逆算した育苗計画の一例

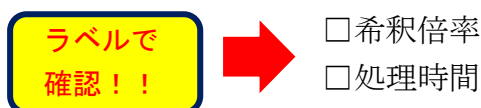


### ○作業場所の管理

- 1  作業場所をキレイに清掃！ ⇒ ワラや籾殻から浸種桶や催芽機への菌の侵入を防ぐ
- 2  育苗箱の消毒 ⇒ 前年、ばか苗病の発生が多かった場合は特に注意！

### ○薬剤消毒時の管理

- 1 薬剤の種類で対象病害虫や処理方法が異なります。



#### ●テクリードCフロアブルを用いた薬剤消毒の一例

処理時間	24時間
希釈倍率	200倍
水量・薬剤量の目安	乾籾10kg 水20L 薬剤100ml

※種子消毒後風乾すると防除効果が高まる

- 2 薬液の温度が低すぎると効果が低下します。



- 3 薬液に浸漬したら必ず籾袋をゆすって、薬液が内部まで十分にゆきわたるように！

### ○温湯消毒時の管理

- 1 温湯消毒は、「58℃ 20分」または「60℃ 15分」を厳守！  
(ただし、使用する温湯消毒機の説明書に温度・時間の記述がある場合は説明書に従います)
- 2 浸種直後、水面上に種子袋を5回ほど上げ下げし、種子袋の中心まで温度が上昇するようにしましょう。また、温湯消毒後はただちに冷却し、そのまま浸種します。

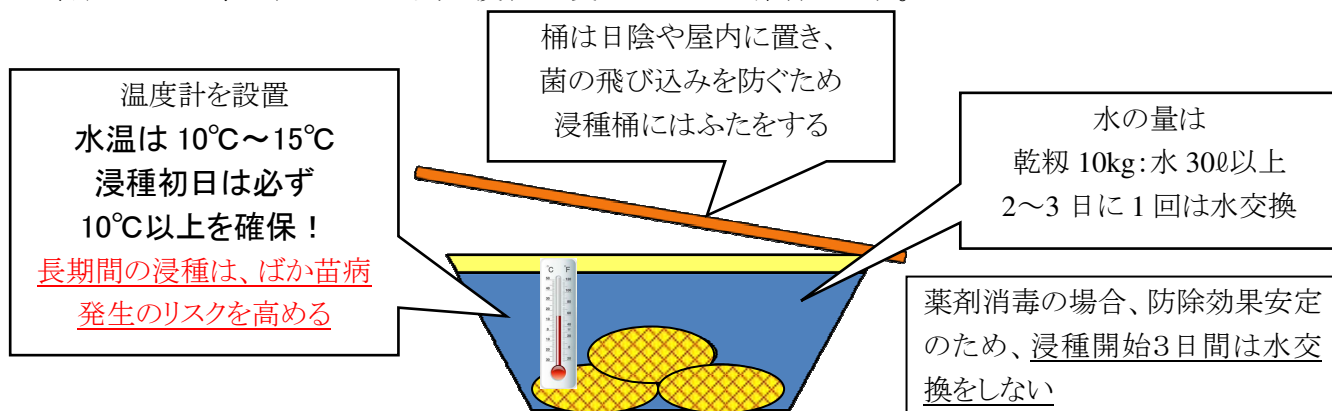
## ○浸種時の管理

高温登熟にあたった翌年は休眠が深い場合があるので、浸種時の水温の管理を例年以上に丁寧に行いましょう。

- 1 浸種初日の水温が低いと発芽率が低下します。必ず水温10℃以上を確保しましょう。
- 2 浸種中の水槽に直射日光が当たると水温が上昇します。水温15℃を超えるとばか苗病が発生しやすくなるため、水槽の置き方や水温には十分気を配りましょう。
- 3 吸水ムラを防ぐため、水交換の際に種子袋の位置の入れ替えを行います。
- 4 右表のとおり、品種ごとに必要な浸種温度をしっかりと確保します。

●浸種期間の日平均積算水温の目標

品種	目標日平均積算水温
ササニシキ モチ品種	100℃ (12℃×8日)
はえぬき つや姫、雪若丸 ひとめぼれ コシヒカリ 酒米品種 ふくひびき	120℃ (12℃×10日)



## ○催芽時の管理

催芽時間は、うるち品種では通常20時間程度です。30～32℃のたっぷりの温湯に袋全体を浸します。鳩胸状態をよく確認してから引き上げましょう。

## ○播種

播種量は、稚苗の場合、催芽粳で180g/箱(乾粳で150g/箱)、中苗の場合、催芽粳で120g/箱(乾粳で100g/箱)を目安に播種しましょう。雪若丸は粒が大きいため、播種粒数が他品種より少なくなります。他品種より苗箱数を1割程度多くするか、播種量を1割程度多く播種しましょう。

## ○ばか苗病の耐性菌に注意

平成29年に、庄内地域でプロクロラズ剤(スポルタック剤)耐性イネばか苗病菌の発生が確認されました。薬剤の切り替え等により発生は抑えられていますが、引き続き注意願います。

以下の方法により、適切に防除を行ってください。

1. プロクロラズ剤の効果が低下している場合は使用を中止し、イプロナゾール剤(テクリード剤)など他の薬剤による種子消毒を行う。
2. プロクロラズ剤の効果が低下していない場合であっても、耐性菌出現防止のため薬剤選択に留意する。プロクロラズ剤を使用した場合は、ばか苗病の発生状況をよく観察する。
3. 温湯消毒や生物農薬による種子消毒を行う。
4. 採種圃及び採種圃周辺の圃場ではプロクロラズ剤を使用しない。

**今年も間もなく米づくりの時期を迎えます。  
久しぶりの農作業なので事故には十分注意！  
農薬はラベルをよく読んで適切な使用を！**